

職員の皆さん

令和5年度予算編成スタートにあたっての市政運営の基本的な考え方

市長に就任してから1年が経ちました。これまで私が大切にしてきたことは、まず現場の声を直接伺うことです。横浜の各地域において、地域を支える皆様が「横浜を良くしよう」という熱い思いを持って活動されています。そして、職員の皆さんも同じ思いを持って、真摯に仕事に取り組んでくれていることも肌で感じています。日々、それぞれの現場で力を尽くしていただき、本当にありがとうございます。私も、この横浜で仕事ができる喜びを感じながら、市民の皆様、関係団体・事業者の皆様、そして職員の皆さんと一緒に「新しい横浜」を創っていきたいと思います。

令和5年度は、現在策定中の中期計画を力強く前進させる年です。中期計画では、すべての政策分野を貫く基本戦略として「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を掲げました。子どもたちや子育て世代を直接支援することはもちろん、安全・安心な生活環境や内外の人を惹きつけるまちづくりなど、都市の魅力を高める全ての取組が、将来の横浜を支える担い手を増やすことにつながります。今回の基本戦略を念頭に置き、全市的な視点を持って予算編成に取り組んでください。

私たちは今、時代の転換期に直面しています。昨年、横浜市の人口は戦後初めてのマイナスとなり、横浜は今後、本格的な人口減少に突入していくことが見込まれます。「財政ビジョン」、「中期計画」、「行政運営の基本方針」のもと、これまでの延長線上の市政運営ではない、そして、これまでの意識を変えた、新たな施策を「創造・転換」していく必要があります。

こうした意識を一人ひとりが持ち、持続可能な市政運営を実現するため、今回初めて「歳出改革基本方針」を策定しました。横浜の将来のために、今何をすべきか、そしてそれを実現するためにはどうすればいいか、知恵を絞ってください。横浜は素晴らしい資源と可能性を持っています。ぜひ一緒に議論をしていきましょう。

私たちに期待されているのは、社会のニーズを敏感にキャッチして、できる限り早く応える「スピード感」、そして「顧客重視」の視点です。

全ての答えは、市民生活が営まれる現場にあります。区局統括本部長をはじめ経営責任職の皆さんは、現場をよく知る職員が職位に関係なく自由に意見ができるようリーダーシップを発揮してください。

ともに明日をひらいていきましょう。

よろしくお願いいたします。

令和4年9月2日

横浜市長 山中竹春